

〈中央銀行パネル〉

世界金融・経済危機に対する中央銀行の政策手段

日本銀行 中曾 宏

リーマン・ブラザーズ破綻を契機に世界的に実体経済と金融システムの負の相乗効果が強まり、同時的な景気収縮と金融市場の混乱がグローバルに進行した。主要国の中央銀行は政策金利の引き下げや流動性の潤沢供給などによって対処したが、政策金利の引き下げ余地は乏しくなった。このため、日本銀行を含む多くの主要国中央銀行は、非伝統的政策、あるいはクレジット・ポリシーとも呼ばれる、新たな政策手段を次々に実施した。本報告では、各国中央銀行によって採用された新たな政策手段を類型化し、これまで観察される効果を検証するとともに、今後の課題について展望する。

1. リーマン・ブラザーズ破綻後の国際金融市場動向

- (1) 市場流動性の低下
- (2) クレジット市場の機能低下

2. 中央銀行の対応

- (1) 政策金利の引き下げ
- (2) 金融市場安定化政策
- (3) クレジット・ポリシー

3. 政策効果

- (1) タームものの金利の低下
- (2) 企業金融の円滑化
- (3) 副作用

4. 今後の課題

- (1) 米国 PPIP(Public-Private Investment Program)の帰趨
- (2) 膨張する中央銀行のバランス・シート